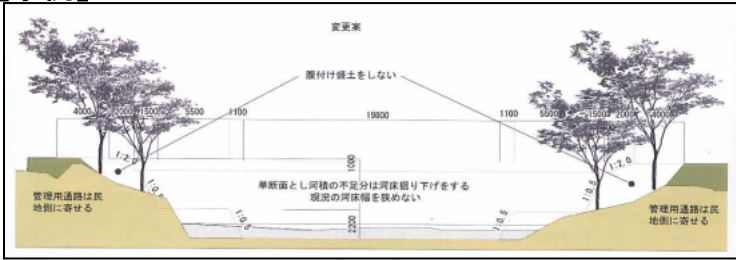


配慮の視点	種の多様性への配慮	配慮項目	野生生物の生息・生育環境の保全・創出
配慮事項	多様な緑地などの保全・創出		
	多様な水辺環境の保全・創出		
配慮事例	高木層から草本類までの多階層な構造の確保		
	営巣環境として利用されている樹林の保全・維持管理		
	野鳥などの食餌植物の保全		
	水辺に木陰を作り樹林・樹木などの河畔林・魚付き林の保全と創出		
内容	<p>● <b>河畔林の存置・伐採時の配慮</b></p> <p>【解説】</p> <p>河畔林は日射の遮断、落ち葉や落下昆虫など、魚類などの水生生物の餌供給、栄養元素の交換などの生態的機能があるため、極力保全することが望まれます。また、河畔林は、生態系の上位種にあたるサギ類、カワウの集団営巣地にも利用され、野鳥などの食餌植物となる樹木も生育するなど、生物多様性に貢献します。しかし、近年ではカワウコロニーの増加により、魚類の大量採餌など生態系劣化と、河畔林枯死（糞の付着による）に伴う倒木増加といった治水面からの問題も生じており、河畔林の存置・伐採に関しては、慎重に検討することが必要です。</p> <p>【具体的な工法・配慮事項】</p> <p>● <b>河畔林の役割</b></p> <p>① 木陰をつくり水温の上昇を抑え、魚類の良好な生息環境を提供しています。</p> <p>② 河畔林の根系は、護岸の機能を持ち、川岸の浸食・崩壊を遅らせ、濁りを抑制します。</p> <p>③ 河畔林の落葉は、植食性の昆虫のエサとなり、これを肉食性の昆虫や淡水魚が食べます。また、水中に落ちた葉には、すぐカビが生じて食物連鎖が始まります。</p> <p>● <b>河畔林の存置</b></p> <p>① 計画段階で平面形、横断形、河川管理用道路の設置位置などを検討します。</p> <p>② 不足する河積は河床掘り下げなどで対応し、河川管理用道路の位置や高さを工夫することで河畔林を保全することが可能です。</p> <p>● <b>河畔林の伐採</b></p> <p>① 伐採計画時に、周辺に生息しその樹林を主な繁殖環境として生物種について伐採区域・密度・時期と期間・手法などを検討することが重要です。</p> <p>② 伐採時には、生物にとって生息・生育するために必要な幅を維持する伐採を行います。</p> <p>③ 治水面で問題ある場合は輪伐なども検討し、樹林は維持します。</p>		

**【事例】**



出典:1

**【場所】**

兵庫県 一庫大路次川

**【環境配慮の内容と方法、工法】**

- ・ 河川改修で河畔林が失われる計画を再検討し、河畔林を保全した。
- ・ 複断面から単断面にし、不足する河積は河床掘り下げで対応した。
- ・ 河川管理用道路は官民境界に寄せ、川表側の川岸を保全した。
- ・ 寄り州の河川管理用道路の位置と高さを検討し樹林を保全した。

留意点

- ・ 工事の実施に当たっては河畔林に生息する生物の生息環境に影響を与えない方法を検討します。
- ・ 各河川によって河畔林を構成する植生は異なり、かつ流下能力も異なるため、各河川の自然及び治水特性を踏まえた計画策定が必要です。

参考資料

- 1 「多自然型川づくりポイントブック 河川改修時の課題と留意点」リバーフロント整備センター
- 2 「加古川における河道内樹木管理ガイドラインの検討」犬丸 潤 平成18年度国土交通省国土技術研究会  
(<http://www.mlit.go.jp/chosahokoku/h18giken/program/kadai/pdf/ippan/ippan3-04.pdf>)